

第17話 シーク寺院参拝

アルワリアが仕事の前にいつもお参りに行くシーク寺院に誘われて僕達も行くようになりました。外国人の場合は最初に別室でシーク教について簡単な講義を受けなくてはなりません。それから靴を預け頭に布をまいて本殿に向かいます。

真面目なシーク教徒で溢れる寺院に異教徒が入り込んでいいのかと心配でしたが、僕らを気にとめる人はまったく無く寛容なものでした。本殿ではシーク教の経典（ホーリーブック）を囲んで数人の僧が楽器に合わせ読教をしています。その周りを回って外に出ると列ができていますので並んだら、男の人が洗面器で何か茶色のアンコのような物をこねていて、参拝者はみなこれを有難そうに頂いて口に入れているのです。僕は思わずしり込みしたのですがアルワリアが薦めるので貰って結局は彼に食べてもらいました。（インドでお腹をこわしたら強烈だと聞いていたので帰りの仕事ができなくては大変と心の中で言い訳をしていました。）

参拝したのはホテルの近くのバングラサヒブ・シークテンプルですが、この朝の読経をお賽銭の音まで拾って録音したCDを日本で見つけました。夜これをかけて寝ると何だか穏やかな気分になれしばらく気に入ってかけていました。

写真の男性は大学の同級生の藤井君です。彼もすっかりインドに魅せられた一人です。

